

経済学基礎

-第1回 経済学とはどういう学問か-

菅 史彦

内閣府 経済社会総合研究所

経済学的な考え方：「比較優位」の理論

- リカードの「比較優位」の理論
- 最も原始的ながら、最も影響力の大きい経済理論の1つ。
- 「分業」と「交換」によって人々が豊かになることができるのか。
- もしなれるとしたら、そのために必要な条件は何か。

モデルの設定

- 農夫と牛飼が、ジャガイモと牛肉を生産している。
- 農夫も牛飼も、一日に8時間しか働けない。
- 例えば、農夫の牛飼が以下のような生産能力を持つ場合：

	1 オンスの生産に必要な時間	
	牛肉	ジャガイモ
農夫	60	10
牛飼	20	70

- 農夫はジャガイモの生産に、牛飼いは牛肉の生産に**絶対優位**を持つ。

絶対優位

ある財の生産に関する生産性が高いことを、その財の生産において「**絶対優位**を持つ」という。

自明でないケース

- 農夫と牛飼の生産技術は以下の表のようになっているとする：

	1 オンスの生産に必要な時間		一日で生産できる量	
	牛肉	ジャガイモ	牛肉	ジャガイモ
農夫	60	15	8	32
牛飼	20	10	24	48

- 牛飼いはどちらの生産についても絶対優位を持っている。
- 一方の経済主体が両方の財の生産に絶対的な優位を持っている場合でも、「分業」と「交換」によって両方が豊かになることはできるのか？

農夫の生産可能性フロンティア

- いま、農夫は一日に4オンスの牛肉とオンスのジャガイモを生産し、自分で食べているとする。

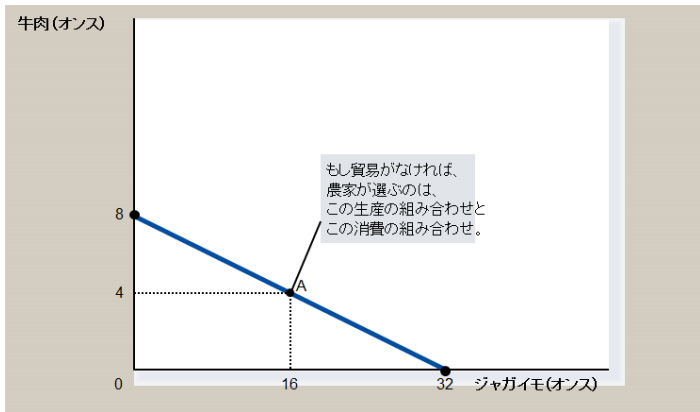


Figure: 農夫の生産可能性フロンティア

牛飼の生産可能性フロンティア

- 一方、牛飼は一日に 12 オンスの牛肉と 24 オンスのジャガイモを生産し、自分で食べているとする。

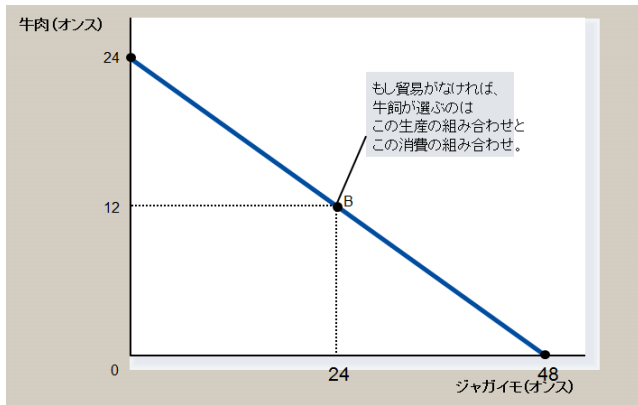


Figure: 牛飼の生産可能性フロンティア

「分業」と「交換」の可能性(1/3)

- 分業・交換がない場合

	農夫		牛飼	
	牛肉	ジャガイモ	牛肉	ジャガイモ
生産量	4	16	12	24
消費量	4	16	12	24

- 分業・交換をすると...

	農夫		牛飼	
	牛肉	ジャガイモ	牛肉	ジャガイモ
生産量	0	32	18	12
消費量	5	17	13	27

「分業」と「交換」の可能性 (2/3)

- いま、農夫は牛肉の生産に専念し、15 オンスの牛肉と引き換えに5 オンスのジャガイモをもらおう。

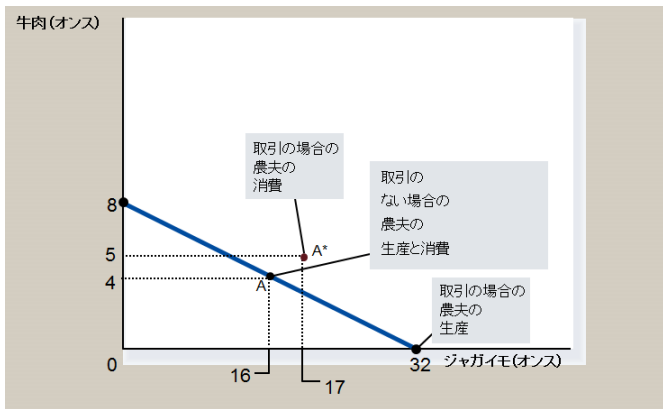


Figure: 農夫の生産可能性フロンティア

「分業」と「交換」の可能性 (3/3)

- 一方、牛飼は一日に 12 オンスの牛肉と 18 オンスのジャガイモを生産し、5 オンスのジャガイモと引き換えに 15 オンスの牛肉をもらう。

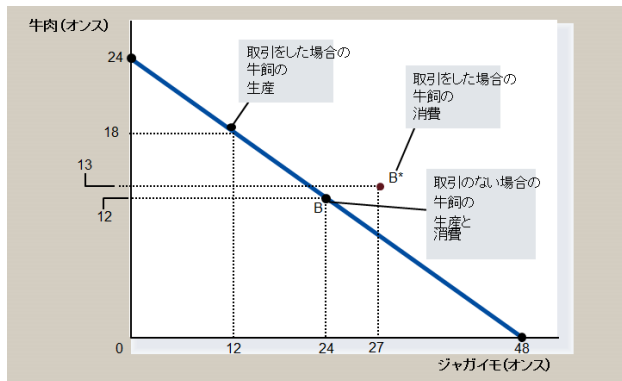


Figure: 牛飼の生産可能性フロンティア

比較優位

- 分業・交換による便益が得られるかどうかにおいて重要なのは、絶対優位ではなく、**比較優位**。

比較優位

ある財の生産に関する**機会費用**が小さいことを、その財の生産において「**比較優位**を持つ」という。

- 農夫はジャガイモ 1 オンス生産するために、牛肉 1 / 4 オンスを諦めなければいけない。
- 牛飼はジャガイモ 1 オンス生産するために、牛肉 1 / 2 オンスを諦めなければいけない。
→ 農夫はジャガイモの生産に**比較優位**を持つ。
- 農夫と牛飼が、**比較優位**を持つ方に専念し、生産したものを交換することで、より多く消費することができる。

「比較優位」理論の含意

「分業」と「交換」によって双方に利益がもたらされるために必要な条件は何か？

- 機会費用が異なる。
- 生産のための資源が有限である。
- 財に対する需要が極端に偏っていない。

これらの条件さえ満たされれば、農業にも工業にも絶対優位を持つ圧倒的な先進国と発展途上国の間での貿易でも、双方にとって有益になり得るということ。